

みんなの笑顔み~つけた!!



広報 和進 Vol.66



「にじがでたよ」あおやま りんさん

- 平田保育園
- 特別養護老人ホーム平田豊生苑（指定介護老人福祉施設）
- 特別養護老人ホーム守山豊生苑（地域密着型介護福祉施設入所者生活介護）
- デイサービスセンター平田豊生苑（通所介護）
- 平田豊生苑居宅介護支援事業所（居宅介護支援）
- 平田豊生苑ふれあい弁当
- 和進館保育園
- 和進館児童ホーム（児童養護施設）

TEL 052-501-8820 FAX 052-501-6435
 TEL 052-505-7201 FAX 052-505-7204
 TEL 052-793-7770 FAX 052-793-7739
 TEL 052-505-7206 FAX 052-505-7206
 TEL 052-505-7263 FAX 052-505-7204
 TEL 052-505-7203 FAX 052-505-7204
 TEL 052-791-2808 FAX 052-792-5192
 TEL 052-793-0122 FAX 052-792-5183

社会福祉法人 和進奉仕会

〒463-0062
 名古屋市守山区長栄20番10号
<http://washin.or.jp/>

和進 Vol.66 2020.3.10
 編集・発行人 吉田寛一郎

発行所 和進館ふれあいセンター
 〒452-0832 名古屋市西区平出町87
 TEL 052-505-7201 FAX 052-505-7204

母として保育者として

私の人生、ほとんどを保育士と三人の子育てをして過ごしてきました。

次女が年少になった5月、その園の職員が体調を崩したため臨時で1ヶ月働くことになりました。車で一緒に園に行き、初めて門に入るときに「今からお母さんじゃなくて先生だからね」と話して入りました。なんと担当も年少で隣の部屋！トイレが共通でこっそりのぞいている娘、何も言わず視線を感じながら「大丈夫かな？」「友だちと遊んでいるかな？」と母の気持ちにもなりながらの保育でした。

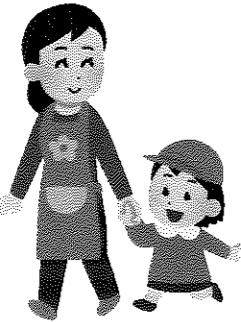
子育ては毎日がバタバタと過ぎていき、月日が経つのは早いもので、あっという間に三人とも成人しました。一人をあんぶして二人の手を引いて出かけたりしていたので、今、同じようなお母さん方を見かけると「懐かしいな」「がんばっているな」と感じます。子どもはいくつになっても可愛いものです。今でも子どもとのスキンシップ（！？）は時々していますよ。顔をじっと見て「可愛いね～」に「知っているう～」と返ってきた言葉に喜んだり、つんつんとして触れ合ってみたり・・・親ばかですね（笑）

そんな私ですが、いつも心掛けていることがあります。それは「自分がされて嫌なことは人にもしない。自分がされて嬉しいことは人にしよう。」ということです。

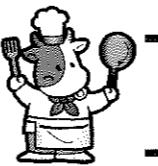
これは子育てや保育のときにも気を付けています。例えば、物を取ってもらったら「ありがとう」と言う。サッと取っていくと、相手の人が決して良い気持ちにならないので、その気持ちを伝える。ほんの些細なことでも人が困っている時には手助けをする。自分が嬉しいことが本当に相手も嬉しいと感じてもらえるかどうかは難しい所もありますが、人に寄り添える気持ちを大切にしたいと思っています。「人の嫌がることや迷惑をかけなければ良い」というだけではなく、相手の立場に立ち、そのうえで自分だったらこうしてもらえたなら嬉しいと考えられる、そんな気持ちを子どもたちにも持つて欲しいと思い保育しています。

子育てや保育で悩んだりした時は友だちとあしゃべりをしたり、好きなもの（あられやあせんべい、時々チョコ）や美味しいものを食べたりして愚痴を言い合い、ストレス発散してまた楽しく過ごせるようになっています。

これからも親はもちろん家族、友だち、職場の仲間に助けてもらいながら自分らしく笑顔でいきたいと思います。



和進館保育園 保育士 藤井 享子



リクエストおやつ



和進館保育園の給食室では、季節の食材や行事食を取り入れながら、楽しく美味しく食べ物に親しんでもらえるような給食作りに取り組んでいます。

なかでも月1回の誕生日会のおやつでは、月に1クラスずつ子どもたちが食べたいおやつを決めて、給食室にリクエストする『リクエストおやつ』という取り組みがあります。



『リクエストおやつ』は前の月から準備が始まります。次の月がリクエストのお部屋では、子どもたちと担任保育士で「クッキーがいいかな？」「チョコレートのケーキがいいかな？」「果物は？」「絵本のキャラクターを作ってもらおう！」などなど、皆で相談しておやつを決めます。

それをあるクラスは大きな画用紙に描いてくれたり、違うクラスは沢山の小さな紙にそれぞれ描いたりして、「お願いします！！」と給食室まで持つて来てくれるのですが、私たちも、誕生日会の日を楽しみにする子どもたちの姿に、どんなふうに作ろうかワクワクしてきます。

リクエストおやつの当日は、給食室からお部屋まで出来上がったおやつを持って行きます。おやつを見て子どもたちは、「わあ！」「キャ～！」の歓声です。調理師が子どもたちに取り分けてあげると、嬉しそうな顔で食べるのを「早く！早く！」と待っています。そして「美味しいね」「かわいいね」と沢山食べてくれる姿に、私たちも（やつたー！）と心の中で大きなやりがいを感じます。

そんな子どもたちの声を力に、これからもより良い給食を提供できるよう給食室一同、努力していきたいと思います。

給食室調理員 内山 菜津・金井 龍一・川田 遥加



12月のリクエストおやつ
「きらきらチョコドーナツ」



6月のリクエストおやつ



「ライオンとハートのショートケーキ」



11月のリクエストおやつ

星をよむ、文字をよむ

紙に向かい、ペンを持ち、ゆっくりと文字を書く。

行く道の端に咲く草花を愛でる。夜空を見上げ輝く星々の中に星座を探す。

巡る季節の変化をじっくりと感じられる瞬間は、どれだけあるでしょうか？

介護職員はそれぞれ、利用者様2～3名の担当をさせて頂き、担当業務として利用者様のキーパーソンとなっている方へ毎月近況報告のお手紙を書いています。

私が担当させていただいているKさんは、長らくおひとりで生活され当施設へいらしたので、キーパーソンとなる方がいらっしゃいません。Kさんは筆まめな方でいつもメモ帳を持ち歩き日々体験したことを、思ったことなどを細かく書き残す方です。

そこで毎月のお手紙をKさんに宛てて書く事にしました。

Kさんが毎日ベランダへ出てお世話をして下さっているプランターの花の事や、“宇宙”的なことが大好きで天体に関する本を大事にされているので、その時期に観られる星座や流星群の事を調べて書いてたり(Kさんは職員がプリントアウトした月齢カレンダーを見ながらお月さまの観察をしています！)、クラシックや歌も好きなので音楽の事など。Kさんへのお手紙のネタに困ることはあります。

毎月、お手紙をKさんへ持っていくと、とても喜んでくださいます。ひと月に一度の事なので、手紙を書いている職員の名前と顔は覚えられないようですが、職員の顔と手紙を何度も交互に見て「あ～！あなたがお手紙の方ですね！いつもありがとうございます」と、とびきりの笑顔で言ってくださいます。

重度の認知症や身体的な障害を抱えた方が多くいらっしゃる当施設では、Kさんの様に今まで趣味として行ってきた事を続けていける方は稀です。

健常者であっても、何かに追われて書く走り書きではなく日々の想いを書き留める事、TVから流れれる遠いところの映像ではない身近な自然を感じることは、思いのほか難しいかもしれません。

日々の小さな小さな移り変わりを感じようと過ごされているKさんのその生活ができるだけ長く続くように支え、また私の書く手紙がその中のほんの少しの彩りとなれば良いなと思います。



介護職員 祖父江 晴香

住人さんとのふれあい～コミュニケーション～

私が平田豊生苑に就職してから、早9か月が過ぎようとしています。初めは、右も左もわからず、介護職員としてうまくいかないことが多々ありました。

就職する以前、介護職員の仕事は、住人さんの介助だけを行えばよいものだと安易に考えていました。しかし実際は、住人さんの介助を行うのは勿論、さらに住人さんの立場に立ち、住人とふれあい、今、住人は何を必要とされているのか考えつつ、親身に仲良くお付き合いするのも重要な介護職員の役割である事を、目の当たりにさせられました。しかし、就職したばかりの私は、住人さんの介助のことで精一杯で、住人さんとのふれあい、ましてや仲良くお付き合いする事など、まったくと言ってよい程できませんでした。

就職してから半年が経ち始めた頃から、次第に住人さんに対して介助だけでなく、少し余裕というか他にも目が届くようになり、住人と仲良くふれあうことも少しずつですが、出来るようになってきました。一言でふれあいと言いますが、その言葉の意味は深く、まず私は、必要な要素の1つとして、コミュニケーションがあると考えました。

そこで、私が考えるコミュニケーションについて少し触れていただきたいと思います。コミュニケーションには、言葉のみで話しをする「言語的コミュニケーション」と動きやジェスチャー等で会話をする「非言語的コミュニケーション」の2つがあります。私は、言語的コミュニケーションを行う事が、あまり得意でない為、無意識的に非言語的コミュニケーションを中心に行動してしまいます。しかし、住人とふれあっていくにつれて、徐々に言語的コミュニケーションも行えるようになってきました。

介護職員として、私が経験したコミュニケーションを生かすことのできた一例を紹介させて頂きまます。私が就職して約半年が経過した頃、新しい住人さんが入所されました。不安そうでしたので思い切って、トイレ介助をした際「どこから来ましたか？」「仕事は、何をされましたか？」などたわいもないお話をさせて頂きました。住人さんからは、この施設の特徴や今後のトイレ介助の仕方を教えてほしいと言われ、言葉やジェスチャーを使用し伝えました。すると、住人さんから笑顔で「きみは、素直で一生懸命に介助してくれて、いい人だね。できれば、名前を教えて頂けないか？」と言って頂きました。翌日の仕事始めに「おはよう、今日の担当は、きみなのか。うれしいよ。」と言いながら手を振ってくれました。仕事終わりにも手を振りながら「今日はありがとう、また、よろしくね。」と言って頂き、すごくうれしかったです。

今回の経験を通じて、介護をするといつても、信頼関係を築き上げた上でなければ、例え一生懸命に支援したとしても介助はうまくいきません。その為、特に第一印象が大切であることを再認識させられました。

コミュニケーションは、福祉関係だけではなく、生活場面や他の職種においても利用することが多く、人間関係において、重要なアイテムの1つであると思われます。話すことが苦手な方でも、逃げずにジェスチャー等を使用するコミュニケーション方法もあるため、仕事以外にも活用してみると、新たな道が開けるのではないかと思います。人見知りが激しく、言葉は勿論、ジェスチャー等も苦手な方にもできる別のコミュニケーション方法を考え、どのような場面でも、役割を担えるようになることを目標として頑張ります。

介護職員 太田 創士

介護はつづくよ、どこまでも。

「入浴介助お願いしまーす。」「はーい！」あるご利用者に手を差し伸べた時、大きく拒否された。ん？　たまたまタイミング悪かった？（・・・なんてポジティブな私）いやいや本気の拒否。それがご利用者Aさんとの初めての思い出。

Aさんは難聴で、補聴器を付けていても殆ど聞こえず、食欲もあまりないよう、昼食にも箸をつけることがなく、1人でカウンターに座って一日を過ごしていました。その後も、Aさんの無言の「お前なんかの言うことなんて聞かないよ」アピールは続きました。介護の仕事にやる気いっぱい、気合満々で入った職場にもなかなか慣れることができず、さみしいやら悲しいやら悔しいやら・・・。覚えることに追われ、心の狭い私は『あ～あ、なんだよまったく。もう、辞めちゃうか。』そんな気持ちで悩んでもいたけれど、他のご利用者に助けて頂き、なんだかんだで続けていました。

少しずつ、仕事も落ち着いてきた私は、もっとAさんに認められるようになりたいという思いが強くなり、何ができるのか、改めて考えるようになりました。とにかく毎日、きちんと目を合わせ、笑顔でいさつ。聞こえなくても、必ず声掛け。こちらからトイレ等のご希望に気づけるように、なるべくたくさん、Aさんを見守ること。

そのうちAさんは、何かにつけて私を手招きし、ご希望を一生懸命伝えてくれ、その後には手を合わせ、お礼を言って下さるまでになりました。食事も、何一つ箸をつけられず、主治医から栄養剤を処方されても、それさえ嫌そうに無理やり飲んでみましたが、小さなおにぎりを「私が作ったのよ」と言ってお出しすると、うんうんと笑顔で一つ、口に運んでくれます。そしてご自分のデザートを無言で突き出し、私にくれようします。そんな時、心から嬉しく、やりがいってこれか！と思いながら気合を入れなおし、また仕事に取り掛かります。

ある日、他の職員から、どうしたら認めて頂けるのかと聞かれることがあり、私は、いつ頃から、なぜ認めて頂けたのか振り返ってみました。しかし何一つ特別なことはしてなくて、当たり前のことを当たり前にしていました。

初めの頃Aさんが、全く知らない新人の私を信用できないのも無理はありません。色々な方がいらっしゃって、気軽にすぐ打ち解けて下さる方もいれば、人を信用するのに時間がかかる方もみえます。それが顕著に態度に出てしまうAさんに『やってあげようと思ったのに』という驕りで面白くなさそうな顔をしていました。Aさんは、なんとなく感じ取って、やっぱり面白くない顔をして・・・とお互いに負のループ。声掛けしても無駄、ダメに決まると、避けて通っていたら、ずっとそのままでした。

Aさんの気に入ることをする必要なんてない。膝を折り、顔の高さを揃えて、笑顔で目を合わせ、驚かせないようにそっと肩をたたき、話しかける。こんな簡単なことでした。もちろん、たまにはそれでも、手を払われることも無きにしも非ずですが、それを楽しく笑って見過ごせる私になりました。

介護に正解なんてあるのでしょうか？　色々な人生を送ってきた偉大な先輩方。その一人一人の生き方に気づき、受け止められる人間になれるよう、私はこれからも努力を重ねていきたいと思います。そして私の介護への探求心は、どこまでもどこまでも続していくのです。

介護職員 奥田 友里

終の棲家

年を取って体の動きも少しずつ不自由さが増し、誰かの助けを少しでも借りないと日々の生活が送れなくなったとき、自宅で最期まで暮らしたいという思いがどれだけ叶えられるのだろう。

もちろん、自宅を選択する人ばかりではありません。子供たちに迷惑をかけたくないという親心もあり、元気なうちから自発的に施設を選択して、そこで生活を楽しく送ろうとする方もみえます。また、自分の意思とは反して施設に入所される方もみえます。施設入所は窮屈な面があるものの、新しい環境に順応しご自分のペースで暮らしを再構築し、居心地の良い場にしていく方もみえます。

ご自宅で最期を迎えた方に関わる中で、病院での表情と自宅に帰ってからの表情が違うと感じた方がみました。環境の差はありますが、住み慣れた自宅に戻り日当たりのよい部屋で過ごす様子は、とても穏やかなものでした。

自宅で暮らし続けるためには、その方の身体状況やご家族の支援、収入や地域との関わり、在宅サービスをどのように使うかなどケースによってさまざまな支援が必要になってきます。

自宅でも施設でも、ご自分でできる部分を生かしながら、その方がその人らしく暮らしを続けられる手助けを僅かながらでもできたらと思う毎日です。

介護支援専門員 加藤 久美子



「ちびっこひろば（地域子育て支援センター）」

少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など社会環境変化の中で、子育てが「孤育て」とも言われつつあります。

和進館保育園では乳児棟の建て替え工事により“子育てルーム”がリニューアルし、未就園児の親子に月曜日から金曜日の10～15時の間、絵本や玩具で自由に遊ぶ場を提供しています。11～13時には園庭開放をしているので、三輪車や遊具で遊ぶ子もいます。その他に、専門の講師の先生方を招いて「リトミック」「親子ふれ合い体操」「ベビーマッサージ」「体をほぐしてマッサージ」などの子育て講習会や、県立大学看護学部の教授に子育ての悩みに応じてもらう2ヶ月に一度の「子育てなんでも相談」を開催しています。

また、担当保育者と毎月誕生日会を開いたり、季節によっては運動会ごっこやクリスマス会なども行っています。

担当保育者に聞いてみました。

Q：どんな方が利用していますか？

A：母子だけでなく夫婦で参加する家庭もあります。

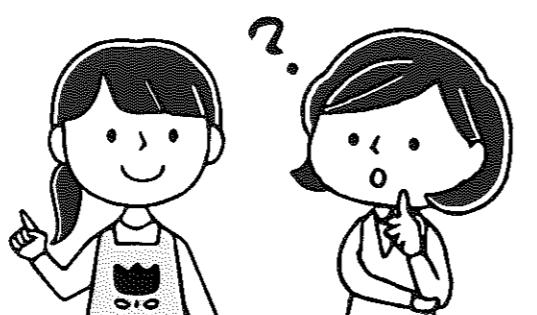
また産後サポートしている祖母が上の子を連れて遊びに来ている方もいます。

近所の遊び場として利用したり、引っ越ししてきたばかりの人々が、近くのお店・公園・病院などを知ることができることで、地域の情報交換の場にもなっています。

Q：どんな悩みや相談を受けることがありますか？

A：「離乳食の時期」や「どれくらい食べたら良いのか、食べ過ぎなのか」「スプーンやフォークをいつ頃から始めたら良いか」など、食事の面での悩みはつきないようです。

また、なかなか寝ない・寝つけないなどの生活習慣や、指しゃぶりなどのくせを保育者や母親同士で話すことで、一緒に共感したり自分だけの悩みではないんだと安心し「話して良かった」と言葉を交わすことがあります。悩みや相談には、子どもの成長や家庭での様子を聞きながら具体的に伝え、出来るようになった事や成長と一緒に喜んでいます。



Q：担当していて感じている事は？

A：近所に知り合いがいなかったり、赤ちゃんの子育てで外出できなかったり、孤立してしまう親子が沢山いるなど改めて感じています。話し相手になることでストレスから解放されて、育児を楽しめるきっかけ作りのお手伝いが出来たらいいなと思います。

「話せてスッキリした」とか悩みに対するアドバイスが、その後の子育てに生かされると嬉しいです。子育て講習会や行事ごとの製作には、沢山の親子が参加して楽しんでいる姿や、お友だちを作るきっかけにもなっていると思うとやりがいを感じられます。

月に一回の誕生日会では、手形を押したカードをプレゼントして、手遊びや触れ合い遊びを親子と一緒に楽しむ姿を見ると、やって良かったと思います。

気軽に来て悩みを話せたり、保育園の事を知ったり、地域との関わりを持てるような場になっているので、今後もさらにたくさんの方に利用してもらえるよう充実させていきたいと思います。

在園児、卒園児の方にも15～18時の間は図書室として子育てルームを使用しています。親子で絵本を見てから帰ったり、絵本を一人一冊借りてお家で絵本タイムを楽しんでもらっています。たくさんの方に利用してもらえると嬉しいです。



親子でクリスマス製作



サンタさんとクリスマス会

保育士 高村 慧
川合 幸美

違うクラスの友だちって気になるね！

平田保育園では入園式から卒園式までの間にいろいろな行事や活動があります。その活動の中で周りにいる友だちはやっぱり気になる様子です。同じクラスや隣のクラスの友だちもいますが、違う学年の友だちはまた特別な存在。そんな異年齢でのかかわりの一幕をご紹介します。



一緒に楽しいことをすることで更に友だちのことが気になるようになってきています。

●ハロウィンの様子

ハロウィンでは自分たちで作った衣装を着てお菓子をもらいに行ったり、集まって踊りを楽しんだりしています。3歳児クラスは包帯男の顔をつけ、その日園庭で遊んでいた2歳児クラスに「とりっくああとりーと！」とお披露目！喜んでもらえるかなとわくわくしていたのですが、2歳児クラスの子は突然現れた小さな包帯男たちにびっくり！泣きながら逃げたり担任の保育士に縋り付いたりしていました。そんな姿を見てニヤリ。走って追いかけたり、「あばけだぞ～」とおどかしてみたりと悪ノリする子もいました。園庭から帰る時、「泣いちゃってたね」、「でもおもしろかったね」と「トリック」の大成功に満足そう。ちょっとびり意地悪だったかな？でもなかなか味うことのない経験でした。



●乳児クラスのたなばた会の様子

0・1・2歳児クラスがホールに集まって一緒に「たなばた」や「パプリカ」を踊りました。少しドキドキの表情の1歳児さんでしたが、兄弟児の2歳児のお姉ちゃんの子が「〇〇くん！」と明るく駆け寄ってぎゅっとする姿を見て安心した様子。一緒に手を繋いでみたり、ハイタッチをしたりと、楽しく踊っていました。そんな姿を見て0歳児さんもニコニコ笑顔に！小さなかかわりでもたくさん友だちを知り、



えてあげたり、何をしたらわからない子に「こうするんだよ」と教えてあげたり…。3歳児の子も手伝ってもらったり助けてもらい、「ありがとう」と嬉しそうでした。みんなで力を合わせて作ったポテトサラダサンドは格別のおいしさだったようです。

●長時間保育の様子

日中の保育の後の夕方の保育を合同で行い、午後6時を超えると全園児が2歳の保育室に集まって一緒に遊んだり、おやつを食べたりします。幼児さんにとって小さい0・1歳児さんは本当にかわいい存在。自然とお兄さんお姉さんになって一緒に遊んであげたりおもちゃを貸してあげたりといった姿が。5歳児クラスの子が作ったブロックを1歳児クラスの子が壊してしまっても、同じ学年の子ならケンカになってしまいますが、「壊されちゃった…」と言いながらも、その表情は「しょうがないな」と微笑ましそうでした。そんな優しさを感じたことで信頼し、仲良く一緒に過ごしています。



異年齢のかかわりを通して、友だちのことをもっと知ることができたり、年上の子に遊んでもらったり助けてもらったりして嬉しかったと感じることができます。その経験した嬉しい気持ちが、自分がお兄ちゃんお姉ちゃんの立場になったとき年下の子に優しさを届けてあげる、といったサイクルに繋がっていくと思います。一般的な社会は同じ年齢の集まりではなく、いろいろな年齢の人人が集まって形成されています。その中の社会性や協調性、思いやりの気持ちを育む為に異年齢のかかわりを大切にしています。これからもかかわりを通して友だちとのやりとりを楽しんだり、相手に対しての思いやりを持って過ごしていくようにしていきたいです。

保育士 上野 史帆里
小島 昂大

子どもたちを支える食事

人が生活していくうえで必要な『衣・食・住』。和進館児童ホームでは、子どもたちの成長や季節に合わせて変化する『衣』の保障、建物が建て替わり11年目を迎えていた現在、子どもたちの『住』空間をきれいに保つために日々環境整備にも努めています。その『衣・食・住』の中で唯一、欠けてしまうと生きることができなくなってしまうものが『食』です。食べる事=生きていく事と言われるほど『食』は人間の要となることだと思います。

今年度から、和進館児童ホームの子どもたちの『食』を支えてくれている坂元栄養士に、色々と質問をしてみました！

Q. 気付いていること、心がけていることを教えてください！

A. 食事のバランスはもちろんですが、行事食（正月はお節、節分は恵方巻など）や、その時々の旬の食材を使用するなどして、料理からも季節感やどの食材がいつおいしく食べることができるのかを感じられるような献立を盛り込むようにしています。
また、色々な食材や料理に触れてもらえるよう、新しい食材（今まで使用したことのない食材）や流行りのメニューなども取り入れ、短い期間で同じメニューが被らないように配慮し、『食育』という部分も意識しながら献立作成を行っています。
時々子どもたちの生活しているユニットにも顔を出し、食事に関する意見や要望を聞き、献立に反映させるようにしています。



Q. ここは難しいな、 感じることは ありますか？

A. メニューや料理を見て「やったー！」「これ好き！」という声や、「おいしい」と笑顔で食べている姿を目にしたり、食事の後に「おいしかったから、また出して！」という言葉を聞いたりした時は、嬉しい気持ちになります。

A. 年齢層が幅広いんですね。高校生の男の子には人気のメニュー（こってり、がっつり系）でも幼稚や小学生、女の子にとってはヘビーで苦手、食べ辛いなどの印象を受けるときがあります。

和進館児童ホームの子どもたち45名、それぞれ食の好みが違います。それに合わせて、全員違う食事を用意するのは大変難しい話になってきますが、土曜日のおやつは子どもたちに何が好きか直接聞いて、ユニットごとの好みに合わせて用意してくれたり、「今度〇〇が食べたい！」という要望にもできる限り応えてくれたりしています。子どもたちの『食』に対する興味、関心が深まっているなと感じると共に、食事が子どもたちの心の安定にも繋がっているなと感じています。

～幼児ユニット調理体験の様子～

幼児ユニットの食事は調理場で作ってもらっています。そのため、実際に食材に触れたり、調理する工程を見たりする経験が少ないのが現状です。子どもたちと一緒に買い物へ行き、調理し、出来上がったものを食べるという調理体験を、幼稚園の代休等を利用しておこなっています。子どもたちは食材を切ったり、材料を混ぜたり、匂いを嗅いだり、色々なことに興味津々で取り組んでいます。出来上がったらみんなで机を囲んで食べるのですが、自分たちで作った料理は味が格別なのか、「あかわり！」の声が絶えません。



「仕上げはチーズをトッピング！」



「たまごが落ちちゃう～」



「星形のニンジン☆」

食に興味を持つ事で食事の時間は楽しむものとなり、笑顔の食卓は健康な身体だけでなく、豊かな心をも育んでいくと思います。現場職員も食育をきちんと理解し、子どもたちが健康な身体で生涯を過せるよう日々支援していきたいです。

ケアワーカー 沼崎 香穂
原田 陽和

やりがい

突然ですが皆様はご自分のお仕事に「やりがい」を感じながら、日々頑張っていらっしゃいますでしょうか。「やりがい」とは、それによって自分は何を得られて、自分の将来にどうつながっていくのか。このストーリーに対して自分なりに満足感を得られている状態が、「やりがい」があると言うことだと考えます。

私は介護職として従事してから他の事業所も含めると早20年が経ち、この間沢山のお爺さん、お婆さん（守山豊生苑では住人さんと呼んでいます）と関わらせて頂くことができました。この間、日々の住人さんとの何気ない会話の中ではあります、「もう長生きなんかしたくないわ、早くお迎えが来ないかな？」というような言葉を少なからず耳にすることがありました。私はその時はあまり深く考えることなく、決まって返す言葉が「まだまだですよ、長生きしてくださいね」とその場しのぎをしていましたように思います。

なぜそのような言葉が住人さんからでてくるのだろうか？恥ずかしながら最近になってようやく考えるようになりました。幸せだと思うことも人それぞれにまた感じ方は当然違い、生きがいや、やりがい、楽しむことを感じられなければ、つまらない、もういいやとなってしまいがちなのかも知れません。すべての人がそうとは限りませんが、年齢を重ね老いとともに徐々に思うように体が動かなくなったりして、生きる楽しみがなくってしまうのかも知れません。

人生いつかは必ずあ別れの時は来ます、辛いことも沢山ありますが楽しいことも沢山あります。私にとっての「やりがい」は今現在関わることのできている住人さん、今後新たに出会うであろう住人さんからこのようなネガティブな言葉が少しでもなくなるよう微力ながら支えていくことだと思います。それによって自分自身も今以上に成長していかなければと思います。

介護職員 宇佐美 厚志



元号が「令和」になって初めての新年を迎えるました。今年は、50余年ぶりの自国開催のオリンピックを夏に控え日本中が湧いています。一方、2018年には75歳以上の人口が65歳から74歳の人口を上回り、その後も増加傾向の見込みとされ、少子高齢化は拍車がかかるばかりです。しかし、高齢者を支える人材不足は慢性化しているのが現状です。保育園においても3歳児クラスからの保育料の無償化も始まっており、そのニーズに応える人材も同様に不足しています。

厳しい現実の中、社会福祉に携わる一員としていかに社会に貢献していくかが法人の命題といつても過言ではありません。

法人本部事務員 杉山 珠美



ホームページ：<http://www.washin.or.jp/>

・寄付ご報告・

以下の方々よりご寄付を頂きました。

改めて心よりお礼申し上げる共にご報告いたします。

株式会社名古屋食糧様	近藤産興株式会社様
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様	アイシン労働組合様
社会福祉法人中部善意銀行様	株式会社東芝中部支社様
株式会社ブライド・トゥー・ビー様	全国シャンメリーアクション組合様
株式会社安心ネット21守山営業所様	名古屋食肉三水協同組合様
株式会社興田建設工業様	有楽製菓株式会社様
日本鏡餅組合様	愛知県信用農業協同組合連合会様
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様	株式会社カルビ一様
株式会社オールドリバー様	廿軒家女性会様
ジエイムスヘイブンス様	関西電力労働組合東海エリア支部様
名糖産業株式会社様	A.C.C.J.中部支部様
特定非営利活動法人こどもハートクラブ様	名古屋商工會議所様
有限会社ひまわり薬局様	21あすなろ会野沢幹一郎様
星野太郎バッグデザイン研究株式会社星野太郎様	株式会社フジエイ斎藤栄成様
名古屋トヨペット(株)本地ヶ原南店様	株式会社オールフン様
林恭弘様	鈴木俊作様
羽場弘樹様	中川ゆみ様
久保英一様	中井英男様(順不同)
加藤敬明様	吉田均様以上

編集後記

いよいよ春本番、新たなスタートの季節です。年初から色々な出来事が起こっていますが、心機一転、元気で頑張りましょう。

平田豊生苑 南海 宏充